

1. はじめに 東北地方における社会資本蓄積の歴史的格差は、産業基盤整備に関連した道路、港湾等の可住地面積当りの投資額の対全国との格差が昭和48年において5.27%の本率にある。このような産業基盤のストック面における遅れに加えて、産業基盤整備の格差が諸格差の大きな要因となっている。地方、住民生活に関連する生活基盤整備状況は人口1人当りの生活基盤投資額の全国との格差が昭和48年と75.8%の本率にある。本研究においては、昭和50年3月31日現在の公共施設の現状(道路・橋梁・都市計画事業・都市公園・宅地工業用地造成事業・公営住宅・港湾・農業施設・林業施設・廃棄物処理施設・上下水道等)について青森県下の整備本率を把握しようとするものである。

Fig. 2: 産業構造の因子分析 (青森45年)

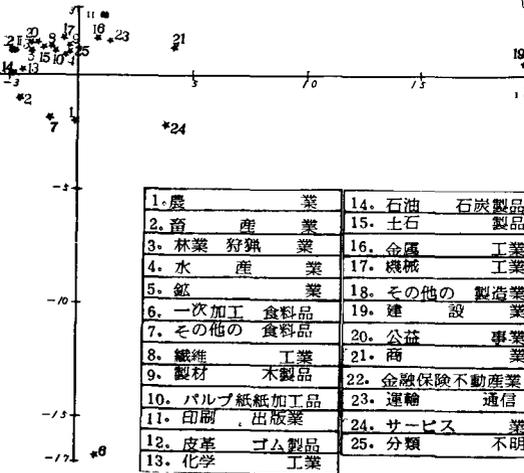
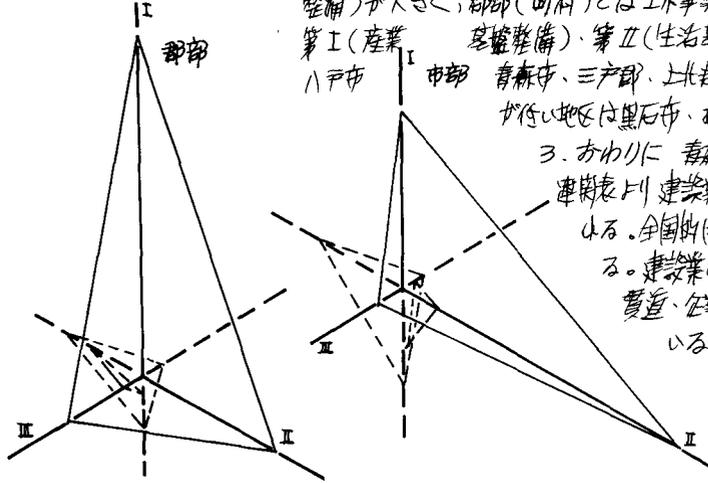


Fig. 2: 公共施設の因子分析



2. 土木構造物の整備本率 標準化バリエーション法による回転後の構造図から、第I因子(累積寄与率:0.80915)は面積・道路延長・路面巾(15-4.5m)・防護柵延長・鉄道との交差枚数・橋梁数・橋梁延長・宅地造成地区数・工業用地造成地区数・港湾幅射入港の枚数・利用船舶数・林道延長・林野面積等の産業基盤整備項目と高い相関があり、第II因子(累積寄与率:0.9946)は人口・土地区画整理計画地区数・栄光面積・街路計画延長・街路架設延長・都市公園面積・都市計画区域人口・公営住宅・ゴミ処理計画人口・給水施設人口・排水区域面積等の生活基盤整備項目と高い相関がある。第III因子(累積寄与率:0.96713)は(廃棄物収集員数・車両数等の衛生事業)項目と相関が高い。因子得点により青森県下市町村の土木・都市計画事業による影響度・特徴を把握する。Fig. 2より、市部とは都市計画事業(生活基盤整備)が大きく、郡部(町村)とは土木事業(産業基盤整備)の要素が強い。第I(産業基盤整備)・第II(生活基盤整備)因子とも得点が高いのは八戸市 市部 青森市、三戸郡、上北郡(大七竹村等)であり、地方得点が高い地区は黒石市、むつ市、東津軽郡等である。

3. おわりに 青森県下の産業構造は35~45年の産業連関表より建設業及び第1次加工食料品に特徴がけられる。全国比には機械工業及び金属工業のウェイトが重なる。建設業のウェイトはむつ市厚田区、東七尾町、工業整備投資等の公共投資に依存している。